

第3学年*組 社会科学学習指導案

指導者 藤原 幸子

1 単元 わたしたちの暮らしと経済

2 目標

- 消費者問題や労働問題、金融財政など、自分の現在及び将来の生活と密接に関わっていることに関心をもち、経済に関する諸問題について意欲的に追究しようとする。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 企業や財政の役割、金融の機能や意義等について、多面的・多角的に考察し、その過程を結果を適切に表現することができる。(思考力・判断力・表現力)
- 統計資料や新聞記事などを収集し、日本の経済活動の課題について読み取ったりその結果を文章や図表にまとめることができる。(資料活用)の技能)
- 身近な事例を基に消費や労働、生産と金融の仕組みや働きについて理解するとともに、市場経済の基本的な知識を身に付け、その考え方を活用して経済事象を捉えることができる。(社会的事象についての知識・理解)

3 単元の中心となる言語活動

消費者問題の解決方法を調べ発表する。

4 生徒の実態と指導について

生徒の実態調査(在籍 男子*名 女子*名)〈調査日平成*年*月*日〉*名実施
〈学習活動に関する調査〉

- 公民の学習は、将来役に立つと思いますか。 はい *名 いいえ *名
- 公民の学習で自分の考えをレポートとして提出することは好きですか。 はい *名 いいえ *名
- これまでに「契約」を結んだ経験はありますか。 ある *名 ない *名 無答 *名
- ネットで注文したことはありますか。 はい *名 いいえ *名
- 買い物で失敗した経験はありますか。 はい *名 いいえ *名

〈知識・理解に関する調査〉

- 次の言葉を聞いたことがありますか。(複数回答)

クーリング・オフ制度*名 PL法*名 ネットオークション詐欺*名 消費者相談センター *名

公民の学習では、授業の最後に課題に関しての自分の考えや意見をレポートとして書かせ提出させている。「自分の考えを書くのは楽しい」「自分の考えを知ってもらえるのがいい」など半数近い生徒は抵抗感なく書けるようになっている。一方、「何を書いていいかわからない」「自分の考えを書くのが苦手」と感じている生徒も少なくない。

本単元の内容に関しては、普段の買い物が「契約」であると意識していない生徒がほとんどであった。また、ネットショッピングは多くの生徒が経験しており、ネットオークション詐欺という言葉も身近に感じている。本単元では、より具体的な被害例について考えさせ自分たちの問題として捉えさせたい。

指導に当たっては、まず、グループごとに課題を設け、関連する法律や制度をもとに根拠をはっきりさせながら解決方法を考え、発表する活動を取り入れる。その後、グループ学習の成果をもとに一人ひとりが課題解決の手立てを考え全体で話し合う。最後に、これからの生活にどう活かしていくかをまとめて書く活動を取り入れることで、本時の学習で習得した学習内容を活用する力の育成をねらいたい。

5 指導計画と評価基準 (21時間取り扱い)

第一次 くらしと経済・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4時間

	学習活動	評価基準
1 2	・ シュミレーションを通して学習意欲を高め経済に興味・関心をもち。 ・ 将来の家計を予測し、検討することで収入と支出のバランスと賢い消費者のあり方について考える。	【関】家計についてのシュミレーションや広告や消費者問題に関心をもちて調べ、まとめている。(ノート・発表)
③ 本時	・ 消費者の権利と保護について具体的な事被害例や対応策などについて自分の考えを表現する。	【思】消費者問題について原因や対応、解決方法などについて考え発表したり、まとめたたりしている。(ノート)
4	・ 様々な商品の流通経路に、消費者として関心をもち。 ・ 流通の仕組みや役割、流通の合理化の取り組みについて調べ理解する。	【関】身近な商品の流通経路について積極的に積極的に調べている。(発表・ノート) 【知】消費者問題を関連する法律等を使って解決策を考え、まとめている。(ノート・発表)

第二次 生産と労働・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4時間

第三次 価格の働きと金融・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4時間

第四次 国民生活と福祉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9時間

6 本時の学習

(1) 目標

消費者の権利と保護について具体的な被害例をもとに解決策や対応策について資料を活用しながら調べ自分の考えをまとめることができる。

(2) 展開

配時	学習活動及び内容	指導上の留意点☆個への支援 ◎評価
5	1 本時の学習課題をつかむ。 賢い消費者になろう。 ～契約と消費者保護～ ・賢くない消費者とはどんな消費者か。	・商品を持示し、コンビニエンスストアで購入する場面を想起させて、本時の学習が身近な問題であることを掴ませる。 ・導入発問なので、時間をかけない。
5	2 「契約」とは何か考えよう。 1) 次の場合契約が結ばれたといえるのはどれか。 ①宅配すし店に、にぎり寿司4人前を電話で注文する。 ②レンタルビデオ店でDVDを借りる。 ③買い物かごに、野菜を入れた。 ④買い物かごをレジに通した。 ⑤靴を買おうと思い、試し履きをした。	・一度交わされた契約は、解消できない場合があることを押さえる。 ・契約上のトラブルは、消費者にも問題があることを押さえた上で話し合いに入る。
20	3 次のA～Fの事例は、商品を返品または契約の解消が可能かどうかグループで調べ、発表する。 A) 同じ物を他店で安く売っていた。 B) 家に帰ったら母が同じものを買っていたことがわかった C) ブランド品といわれて買った偽物だとわかった。 D) 商品の代金を払ったのに商品を渡してもらえない。 E) クリスマスプレゼントとして予約したものが26日に届いた F) 無料で壁の検査をすると家を訪問した工事関係者から、「検査の結果、大至急修理が必要。」と言われ契約を結んでしまった。	・トラブルカードとしてA～Fを配り、解決方法をグループごとに考えさせる。 ・返品できない、契約を解消できないは、どこがポイントになるか考えるよう支援する。 ☆グループ活動への取りかかりに時間がかかることが予想されるAさんには、返品や契約の解消が可能になるのはどんな場合か資料集の事例を使って具体的に説明する。 ・消費者側の問題についても必ず触れるように話す。 ◎各グループごとに返品できるか契約を解消できるかを根拠をはっきりさせて発表している。
15	電話でアンケートに答えたら、その後再び電話があり、「景品」に当たったと言われ、財布を買う契約をしてしまった。契約を解消し、お金を返してもらうことはできるか。	【思】（発表・ノート） 【「努力を要する」状況（C）の生徒への手立て】 ・資料集の中の法律を確認しながら個別に声かけをして支援する。 【「十分満足できる」状況（A）】 ・トラブルの解決方法について様々な資料の中から選び適切に書いている。また、場合によっては適用できないことがあること等にも触れている。
5	4 新たなトラブルについて全体で解決法を考える。 ・消費者相談センターに相談する ・クーリング・オフ制度を利用する ・財布をいつ買ったかによってクーリング・オフ制度が使えない。 賢い消費者になるには、 ・しっかりと考えて契約を結ぶ。 ・消費者保護のための法律や制度を知る	・まず、一人で考えノートにまとめてから、全体で考えていくこととする。 ・クーリング・オフ制度を利用するための条件を確認する。 ・クーリング・オフ制度が適用できない場合があることも押さえる。
	5 本時のまとめをする ・本時のまとめを短い言葉で書く。 ・本時の学習を通して、賢い消費者となるためにどんなことに気をつければ良いか、またこれからの生活に生かしていくことは何かをノートに書く。	・本時のまとめとして、賢い消費者になるにはどんなことが大切かを「契約」「消費者保護」をキーワードとして使い短い言葉で書くようにする。 ◎全体でまとめた後、本時で学んだことをこれからの生活にどう活かしていくかを書いている。 【知】（ノート）